

【名 称】澤山家長屋門

【所在地】丹波篠山市市野々761番地

【指定番号】第4号

【指定年月日】平成28年2月16日

【構 造】木造平家建

【敷地面積】約875㎡

【建築面積】約36㎡

【延床面積】約36㎡

【建築年代】江戸後期



澤山家長屋門

【建造物の由来・沿革・特徴】

丹波篠山市の北東部、大芋地区の国道173号福井交差点から東へ約3kmの市野々に建つ長屋門。澤山家長屋門は市野々の集落を小川・県道で挟んだ東側に建つ。

地元ではその特徴的な外壁色から「赤門」と呼ばれ親しまれている。建設時期は江戸後期に建てられたものと言われる。

(伝承では、室町時代後期の建設とも言われる。)

屋根は茅葺、入母屋、平入。外壁は土壁(赤系色)、腰下見板張。両開き板戸、格子戸、与力窓、なまこ壁などの伝統意匠がみられる。また地区には複数の長屋門が存在する。

約10年前に、外壁廻りおよび内部の修理を行っている。

敷地内には他に、主屋、土蔵、納屋、庭などがあり土塀及びコンクリートブロック塀で囲われている。



位置図

【指定理由】

大芋地区は、農村部としては他の地区に例のない密度で長屋門が分布しており、その中でも地元住民から「赤門」の愛称で呼ばれ、ひな祭りの会場や地元小学生が選ぶ名所の一つとなるなど、澤山家長屋門は大芋地区の長屋門の代表格となっている。県道沿いの緩やかな曲折点に位置し、その視認性は極めて高く、集落ひいてはこの谷筋のランドマークを構成している。

屋根は茅葺で11個の置き千木を有する豪壮な入母屋で、棟は杉皮竹押さえ、外壁は赤い土壁と腰下見板張り、与力窓を備え、中央には両開きの大戸、引違い格子戸、腰はなまこ壁といった、伝統的な工法や様式を用い、前面の池(堀)石積や石橋、小祠、カイズカイクキ等の緑と一体となった長屋門の邸宅環境は、抜群の視認性と相まってどっしりとした存在感ある佇まいを提供している。

大芋地区に残る長屋門の景観は、地区特有の農村集落景観を形成しており、その長屋門を代表する本建造物は、大芋の景観の象徴として景観重要建造物にふさわしい資質を有している。